

【目指す姿】						
地域を知り、大切にする子					地域部	

	評価項目(成果) 取組(教育・運営活動)	評価基準	1学期		2学期	
			評価	分析及び考察	評価	分析及び考察
成果	○地域の様々な文化的資源とかかかわる活動をとおして、地域を知り、大切にしていこうとする児童が80%以上になる。	・児童アンケート「生活科・総合的な学習の時間などから、浦佐の好きなところや自慢できることを言えますか。」 ・保護者アンケート「浦佐の好きなところや自慢できることを言える。」 →両方とも全体の80%以上達成のときA評価	児童 84.5 % 保護者 71.7 % (職員) 84.2 %	B ・児童アンケートは肯定的な評価が80%を超える学年が多かった。1学期に地域と関わる活動を設定したことで、地域のよさに目を向けることができた。学期を追うごとに達成率が上がっていくように、2学期以降の活動を深め、児童が地域のよさを更に知ったり、「自慢できる」ところに意識を高めたりできるよう努める。 ・一方で保護者アンケートは、80%を下回った。特に低学年の達成率が50～60%と低かった。2学期も引き続きホームページや文章で発信する。	児童 86.2 % 保護者 78.9 % (職員) 94.1 %	B ・各学年で様々な活動を2学期に設定したことで、地域のよさに目を向けたりよさを実感したりすることができたと考える。 ・米の販売や菊まつりの参加など、保護者に向けた発信や保護者も巻き込んだ活動の仕方によって「児童が浦佐のよさを実感している」と捉える保護者が増えたと考える。学校ホームページも積極的に活用して、地域の皆さんとかかわる様子を発信したことが保護者にも肯定的に伝わったようだ。
	○異なる文化をもつ人々とのかかわりにより、相手の思いを受け止めたり、多様な考えや文化があることに気付いたりする児童が80%以上になる。	・児童アンケート「さまざまな考えや文化の違いがあることに気が付きましたか。」 ・保護者アンケート「さまざまな考えや文化の違いに気づいている。」 →両方とも全体の80%以上達成のときA評価	児童 87.3 % 保護者 79.5 % (職員) 78.9 %	B ・児童アンケートは肯定的評価が80%を超える学年が多かった。外国籍児童とともに過ごし、異なる文化を身近に感じながら活動することができた。 ・保護者アンケートの肯定的評価は70～80%台であった。2学期以降、国際大学の留学生訪問や外国籍児童の保護者による人材派遣などを取り入れて、国際理解教育を充実させていく。	児童 91.2 % 保護者 87.4 % (職員) 82.4 %	A ・外国籍児童の扱う日本語が上達したことで、日本人児童とのコミュニケーションが積極的にはかられたことにより、児童間の相互理解が深まったと考えられる。 ・留学生訪問や人材バンクを活用して、外国籍児童の保護者が学校に出入りする機会が多かった。外国籍児童の保護者から、国際大学やそれぞれの母国に関しての説明を受けたことで、お互いに対する関心が高まった。 ・設定した活動を通して、さまざまな考えや文化の違いを児童が肯定的に捉えられるように教師が価値づけたことが、肯定的な評価に繋がった。
教育活動	○地域(人、物、場所、出来事)とかかわる活動を学期に1回以上行い、発信する。	A: 通常学級すべてで学期に1回以上実施 B: Aに満たない	9／11学級	B ・各学年が地域とかかわる活動を計画的に実践したが、発信がうまくできていない学年もあった。活動で終わるのではなく、「児童が学んだことをどのように発信するのか」まで計画するようにする。 ・ホームページを活用できるよう情報部と連携する。	9／9学級	A ・各学年が地域とかかわる活動を計画的に実践し、発信していくことができた。おたよりやホームページ以外にも、学習発表会などで積極的に発信することができた。
	○国際理解や外国籍児童・保護者との活動など、異なる文化とかかわる場を学期に1回以上設定する。	A: 通常学級すべてで学期に1回以上実施 B: Aに満たない	8／11学級	B ・外国籍児童とかかわりなどを通して、学年によって外国の文化に触れることができた。 ・各学年で学期ごとに外国の文化に触れる機会を設定するなど、国際科や国際理解教育の活動を工夫する。	9／9学級	A ・留学生訪問では、国際大学側が募集した学生の中から選ばれた学生が来るので、全く知らない外国の文化に触れることができたと考ええる。人材バンクでは、学校側が要請した人材が来校するため、保護者を呼びやすかった。保護者も学校に来やすかったと考えられる。
運営活動	○地域コーディネーター(地域づくり協議会等も含む)と連携し、活動を計画する場を年に1回以上行う。(情報交換、共有など)	A: 年に1回以上実施 B: 実施していない	年間で評価			・各学年の活動に応じて連絡を取ったり、想定できる活動についての話し合いを行った。 ・職員全体での研修は行わなかったが、今年度の取組み方が柔軟でよいと考える。
	○人材バンク(地域住民、国際大学、外国籍児童の保護者など)の整備や資料の周知を行う。	具体的取組を記載 ・地域コーディネーターと連携していく。各学年の活動に応じて、講師を紹介していただいたり、一緒に活動していただいたりする。	・各学年で地域人材を活用したりすることができた。 ・人材バンクや指導計画を学期ごとに見直し、加除訂正していく。		・留学生訪問と人材バンクのよさや違いを、職員に周知していく必要があるかもしれない。 ＜学校運営協議会委員の方々のご意見＞ ・地域の行事で浦佐小学校の児童が外国の人に話かけている場面を見た。英語に抵抗を感じない姿がよかった。 ・浦佐小学校は、外国籍児童と触れ合う機会が多いところが、長所だと思う。外国籍児童と日本人の児童と更にコミュニケーションを深めていくことを期待する。	